

8/25(火)開幕

パラリンピック8競技 in とうとう

この競技
に注目!

車いすバスケットボール

美しい放物線を描くシュートの正確性や車いすで走るスピード感、勢いあまって転倒もある選手同士の激しいぶつかり合いなど、多彩な魅力が人気の競技です。男子は11回連続出場中。女子はシドニー2000大会で銅メダルを獲得。

ボッチャ

リオ2016大会の団体BC1と2のクラスで初の銀メダルを獲得した「火ノ玉 JAPAN」。みなぎる闘志とパワーが魅力の廣瀬隆喜選手を軸に、世界での存在感が増えています。

車いすテニス

片手にラケットを持ちながら車いすを漕いで動き回るため、テニスのテクニクに加え、車いすの操作にも高い技術が必要。史上初のパラリンピック連覇を果たした国枝慎吾選手とリオ2016大会で銅メダルに輝いた上地結衣選手に注目です。

5人制サッカー

別名「ブラインドサッカー」。視覚障がいのある選手を対象とするサッカーで、ゴールキーパーは晴眼（視覚障がいの無い選手）、または弱視の選手が務めますが、フィールドプレーヤーは視覚障がいのある選手でなければなりません。

カヌー

パラカヌーが初めて採用されたリオ2016大会で、女子KL1クラスの瀬立モニカ選手が8位入賞を果たしました。男女ともに競技人口が増加中で、選手の強化が進められています。

ボート

日本は過去3大会に出場していますが、いずれも推薦枠での出場。東京2020大会では自力での出場権獲得を目指しています。競技人口は約100名。競技の普及や選手発掘が進行中です。

アーチェリー

東京1964大会から出場して以来、これまで多数のメダルを獲得。リオ2016大会で7位入賞を果たした上山友裕選手や、選層を迎える仲喜嗣選手がメダルを狙います。

水泳

幅広い年齢層の選手たちが活躍しています。リオ2016大会メダリストの木村敬一選手や、2018年に100mバタフライの世界記録を更新した東海林大選手、昨年100m平泳ぎで世界新記録をたたき出した山口尚秀選手に期待が高まります。

東京2020パラリンピックメダル

パラリンピックメダルのおもて面には「Tokyo 2020」の文字が点字で表記されています。また、金・銀・銅の違いが触れて分かるよう、メダル側面に金は1つ、銀は2つ、銅は3つのくぼみが施されています。うら面のデザインモチーフは、人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む“扇”。要部分はアスリートを表し、扇面は岩、花、木、葉、水で日本の自然を表現しています。



©Tokyo 2020

“水上のF1”の迫力を楽しんで!

瀬立モニカ選手

パラカヌー

瀬立モニカ選手は、東京2020パラリンピックのカヌーカヤックL1クラスに出場内定を決めた22歳。パラカヌーの魅力は「障がいがあっても水の上では自由。健常者と同じように自らカヌーを操り、スポーツを楽しめること」と語ります。また、「観戦する皆さんは、カヌーのスピードに注目を。“水上のF1”とも例えられる、迫力を楽しんでください」とも。

パラリンピックのカヌー競技は、9月3日(木)から開催。熱戦の舞台となるのは、瀬立選手が生まれ育った江東区にある海の森水上競技場です。「地元開催は私にとって最大の武器。たくさんの方が応援に来てくれるので、“一人じゃない”と思えて心強いです。地元でのメダル獲得を実現できるよう、前に突き進みます!」。みんなで熱い声援を送りましょう。

この選手
に注目!



瀬立モニカ選手

江東区カヌー協会所属。中学生の頃からカヌーに親しむ。高校生の時、体育の授業でけがをして車いす生活に。リハビリを経て、パラカヌー選手として競技に復帰。カヌーがパラリンピックの正式種目となったリオデジャネイロ2016大会に出場し、8位入賞を果たす。

Profile

東京2020オリンピック・パラリンピック

とうとうで楽しむ徹底ガイド

いよいよ今夏に迫った、4年に1度のスポーツの祭典。江東区は10会場で、オリンピック12競技、パラリンピック8競技が行われます。区内で開催される競技の注目選手や見どころなどを紹介します。

※記事の内容は2020年2月5日現在

この競技
に注目!

7/24(金・祝)開幕

オリンピック12競技 in とうとう

バレーボール

男子のプレーは速さと高さ、パワーが魅力で、長身の選手がボールをアタックする迫力は圧巻。西田有志選手と石川祐希選手に期待を。女子は戦況を分析・活用するITバレーを取り入れ、成長しています。

体操 (体操、新体操、トランポリン)

体操男子は6種目、女子は4種目が行われます。多くのメダルを獲得してきた体操男子は、ベテランに加え若手の台頭により、この春の代表選考大会からも目が離せません。新体操はしなやかで洗練された動きと、曲の雰囲気や演技に魅了。トランポリンは、昨年の世界トランポリン競技選手権大会で内定を果たした堺亮介選手と個人優勝した森ひかる選手に期待がかかります。

自転車 (BMXレーシング、フリースタイル)

大きく起伏するコースで迫力のあるBMXレーシングと、ジャンプや空中動作、回転などの技を競う新種目BMXフリースタイル。フリースタイルパークでは、中村輪夢選手がメダル有力候補とされています。

スケートボード

東京2020大会から採用される新競技。江東区出身の堀米雄斗選手をはじめ、西村碧莉選手、スノーボードハーフパイプ銀メダリストの平野歩夢選手など、世界と戦える選手が続々と登場しています。

テニス

テニスはメンタルが重要なスポーツ。試合の流れを左右する「メンタルの戦い」も観戦のポイントです。リオ2016大会で96年ぶりにメダルを獲得した錦織圭選手や躍進中の大坂なおみ選手の活躍に期待を。

バスケットボール (3x3)

通常のバスケットコート約半分を使用し、3人で試合に臨む新種目「3x3 バスケットボール」。日本は2018年11月時点の世界ランキングで男子4位、女子8位。5人制と合わせて活躍が期待されます。

スポーツクライミング

スピード、ボルダリング、リードの3種目の総合ポイントで競います。中でもボルダリングは日本がトップクラス。若きエース植崎智亜選手と、ボルダリング界をリードしてきた野口啓代選手に注目です。

カヌー (スプリント)

スプリントは短距離を全速力で漕ぎ抜ける競技で、スタートの素早い飛び出しがポイント。2大会ぶりの出場となる今回、松下桃太郎選手、藤嶋天規選手、永本圭治選手、宮田悠祐選手に注目です。

ボート

水上の直線コースでオールを使って漕ぎ、順位を競います。シングルスカル以外は2人以上で行うため、何よりチームワークが大切。全員の息がぴったりと合ったときの一体感がボートの醍醐味です。

馬術 (総合馬術: クロスカントリー)

リオ2016大会には、10名の選手で臨んだ日本の馬術。近年、欧米からトレーナーを招いて人馬の技術向上に努め、多くの日本人選手がヨーロッパを拠点に活動。技術レベルが着実に向上しています。

アーチェリー

70m先の的を狙って弓で矢を放ち、得点を競います。体力や技術はもちろん、メンタルの強さが勝敗の決め手となります。重要な場面でどれだけ平常心を保って正確な矢が放てるかが見どころです。

東京2020オリンピックメダル

全国から寄せられた携帯電話などの使用済み小型家電から金属を抽出し、それらを原材料に制作されました。リサイクル金属から生まれた、環境に優しいメダルです。

オリンピックメダルのおもて面は、勝利の女神ニケ。うら面は、アスリートが勝利に至るまでの努力の日々をイメージした“光と輝き”が表現されています。



©Tokyo 2020

水泳 (競泳、水球、アーティスティックスイミング、飛込)

競泳選手たちは、タイムが拮抗する世界最高峰の舞台で戦っています。多様で勝負できる瀬戸大也選手にメダルの期待がかかります。「水中の格闘技」と称される水球。鍛え上げた大きな体が縦横無尽に行き交い、激しくぶつかり合います。リオ2016大会で銅メダルのアーティスティックスイミングは、さらに上のメダル獲得に挑戦します。飛込の魅力は「一瞬の美」。寺内健選手・坂井丞選手ペア、三上紗也可選手、荒井祭里選手の演技に注目。